

条幅部自由参考

11月25日正午必着

明石春浦先生書



松軒蘿逕 (唐伯虎) 山莊の深い趣

明石幸子書



東風踏青罷 閑倚案頭眠  
主人供筆硯 爲題醉青蓮

(良寛)

春の風吹く 野を歩き 机にもたれて ひるねする。  
主人に硯と 筆出され 酔うた李白に 賛をする。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

清曠涼夜月 (高 適)

清曠涼夜の月

涼夜の月は、あくまでも澄みわたっている。

二句三年得 一吟雙淚流  
知音如不賞 歸臥故山秋 (賈 島)

二句三年に得たり 一たび吟ずれば雙淚流る  
知音も賞せざれば 帰り臥せん故山の秋に

たった二句に三年かかった。吟詠しているうちに涙がこぼれて来る。この詩をお目にかけて、もしほめられなかったら、私は故郷へ帰るほかない。

送殷堯藩游山南 (姚 合)

殷堯藩が山南に遊ぶを送る 姚 合

詩境西南遠 秋聲晝夜蛩  
人家連水影 驛路在山峯  
溪靜雲生石 天晴雪覆松  
我爲公府繫 不得此相從

詩境 西南に遠く 秋声 晝夜の蛩  
人家 水影を連ね 驛路 山峰に在り  
溪靜かにして 雲 石に生じ 天晴れて 雪 松を覆う  
我 公府の繫ぐところと為り 此に相従うことを得ず

夕づく日 荻の葉越しにかたむきて 音せぬほどの 秋風ぞふく

(熊谷 直好)



朔風吹葉雁門秋 萬里烟盡昏戎樓 (張士容 盛唐・涼州詞)

菅井松雲先生書

半紙部規定課題A

11月25日正午必着

枝山  
香寶  
満

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

11月25日正午必着

行書



隸書



明石春浦先生書

草書



行草書



北向きの戸を開けば、雲たなびく空のまことよろしき景色 堂塔のたたずまいは、まるで西方浄土のよう  
林の下に、僧たちは何の俗事もなく 江は清く澄んで、日は今や暮れなすむころ  
岩石の間にわき出る泉、手にいっばいにすくえばひんやりと冷たく 山中の木々は、枝にいっばいに実をつけてかぐわしい  
ひっそりとしずかに、仏心のしるしを伝え、ことば無しということすらをも、もはや忘れてしまった

西郊蘭若

羊士諤

雲天宜北戸

塔廟似西方

林下僧無事

江清日正長

石泉盈掬冷

山實滿枝香

寂寞傳心印

無言亦已忘

西郊の蘭若

羊士諤

雲天 北戸に宜しく

塔廟 西方に似たり

林下 僧事無く

江清くして 日正に長し

石泉 掬に落ちて冷たく

山実 枝に満ちて香し

寂寞として 心印を伝ふ

無言 亦た已に忘る

千字文



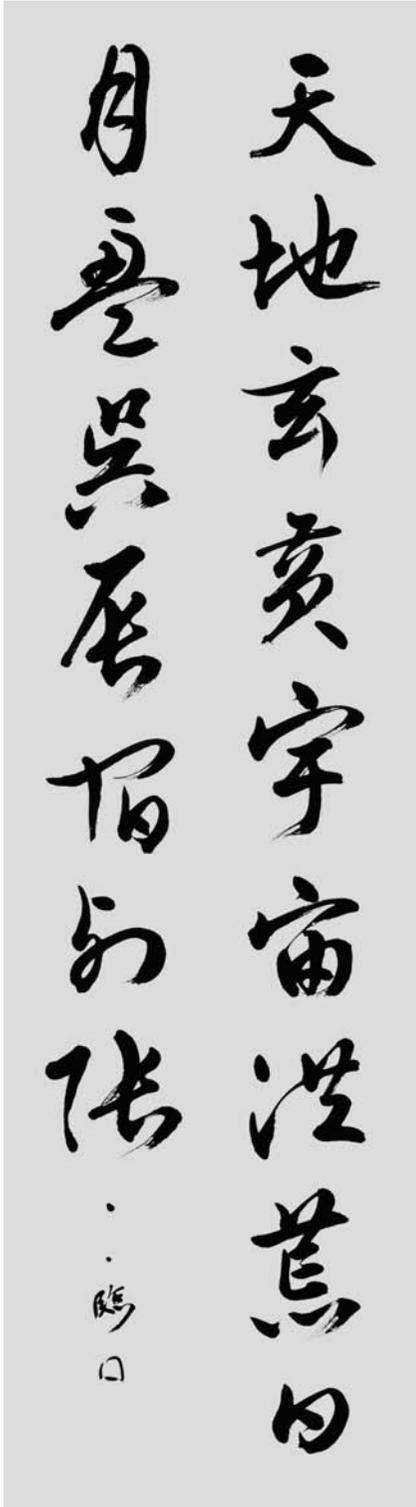
天地玄黄 宇宙洪荒 日月盈昃 辰宿列张 寒来暑往 秋收冬藏 閏餘成

暑往秋收 冬藏閏餘 成

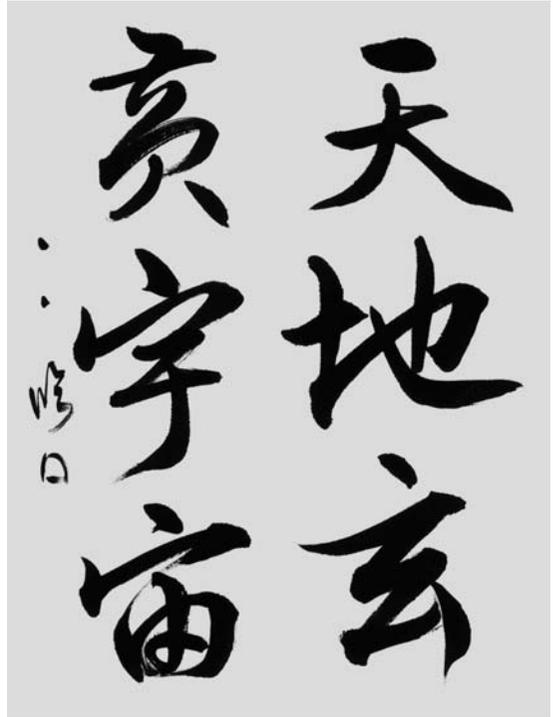
暑往秋收 冬藏閏餘 成

千字文。天地玄黄。宇宙洪荒。日月盈昃。辰宿列张。寒来暑往。秋收冬藏。閏餘成。千字文。天地は玄黄、宇宙は洪荒なり。日月は盈昃し、辰宿は列張す。寒さ来たり暑さ往き、秋收めて冬蔵す。閏餘もて(歳を)成し、

11月25日正午必着



天地は玄黄、宇宙は洪荒なり。日月は盈昃し、辰宿は列張す。



天地は玄黄、宇宙は（洪荒なり。）

明文徵明・行草千字文卷

文徵明（一四七〇〜一五五九）は、揚子江下流域の蘇州の生まれで、明代中期を代表する文人である。宋・元の時代以来、揚子江下流域は主要な米産地で、その中心をなすのが蘇州であり、明代になると絹織物や綿花の産地としても栄え、豊かな経済性に富んだ地域であった。そんな風土の中ではおのずと文化も栄え、すぐれた文人を輩出した。

文徵明の少年時代は特に秀でた子供ではなかったが、父・文林の同僚や友人に当時の第一流の巨匠がおり、彼らに師事して詩や書画を学ぶことができたこと、生来の生真面目な性格と根気強さで、基礎から築きあげていく努力を重ねて、文人としてのめきんでた才能を身につけていったといわれている。

明代の書家達は復古主義を標榜し、元代に一世を風靡した趙孟頫の書を通して王羲之の典型を学ぼうとしたが、文徵明は、さらに直接的に王羲之に肉迫しようとした。また、単に羲之に追隨するだけにとどまらず、他の色々異なった書法を学び、それを消化して自分の書を変化させていった。

彼は天才的能書家ではなく、たゆまぬ習熟と工夫によって大成した。決して独創的で型破りな面白味はないが、一点一画をゆるがせにしない伸びやかで清く澄んだ筆致は、謹厳さときめの細やかさを感じさせる。

文徵明は九十歳という長寿であったが、少年時代から千字文を日に十本ずつ書いて書の修練にはげんだといわれ、長い一生のうちにも多くの千字文を書いたに相違なく、この行草千字文もその一つである。（春濤）



雨宮春聲先生書

べん ろん たい かい  
弁論大会

中学一年



菅井松雲先生書

か ぶ き ざ  
歌舞伎座

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



にほん 日本ばれ

小学五年

藤井良泰先生書



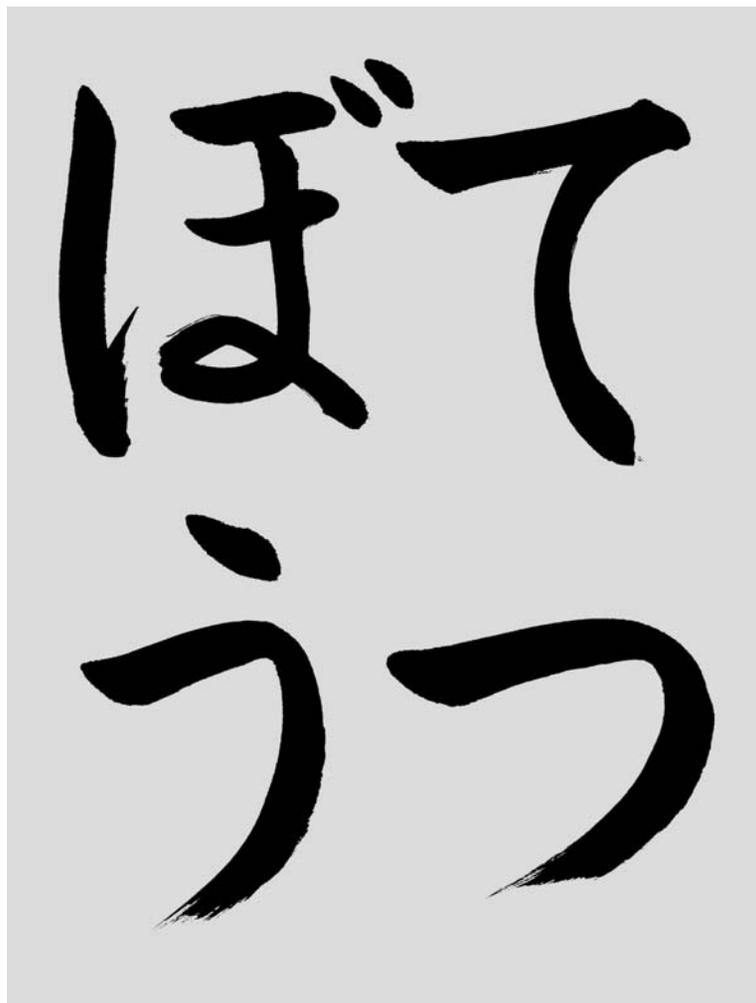
くにことば お国言葉

小学六年

森戸春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

11月25日正午必着



細谷春誠先生書

てっぼう

小学三年



榎戸春龍先生書

とけいだい

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

す き 小学一年・幼年



藤田幸春先生書

ね ん ど 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

本を讀んで心を動か  
 されるときがあります

小学五年

山頂に近づくと森は消  
 え風景はいつぺんする

小学六年

ふたりを乗せた舟は  
 湖水を静かに進んだ

中学

どんな時もあるたのそぼで  
 咲く一輪の花でありたい

一般(級位)

いまこ  
 今来むと 言ひしばかりに 長月の 有明の月を 待ち出でつるかな (百人一首・素性法師)

今来むとさきりばついに長月  
 の有明の月を待ち出でつるかな

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。  
 また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

か	す
わ	ず
い	を
い	つ
こ	け
ね	た
こ	

幼年

ね	た
	い
村	こ
ま	と
つ	ふ
り	え
	の

小学一年

竹	か
か	ぐ
ら	や
生	ひ
ま	め
れ	は
た	

小学二年

七	白
人	ゆ
の	き
小	ひ
人	め
た	と
ち	

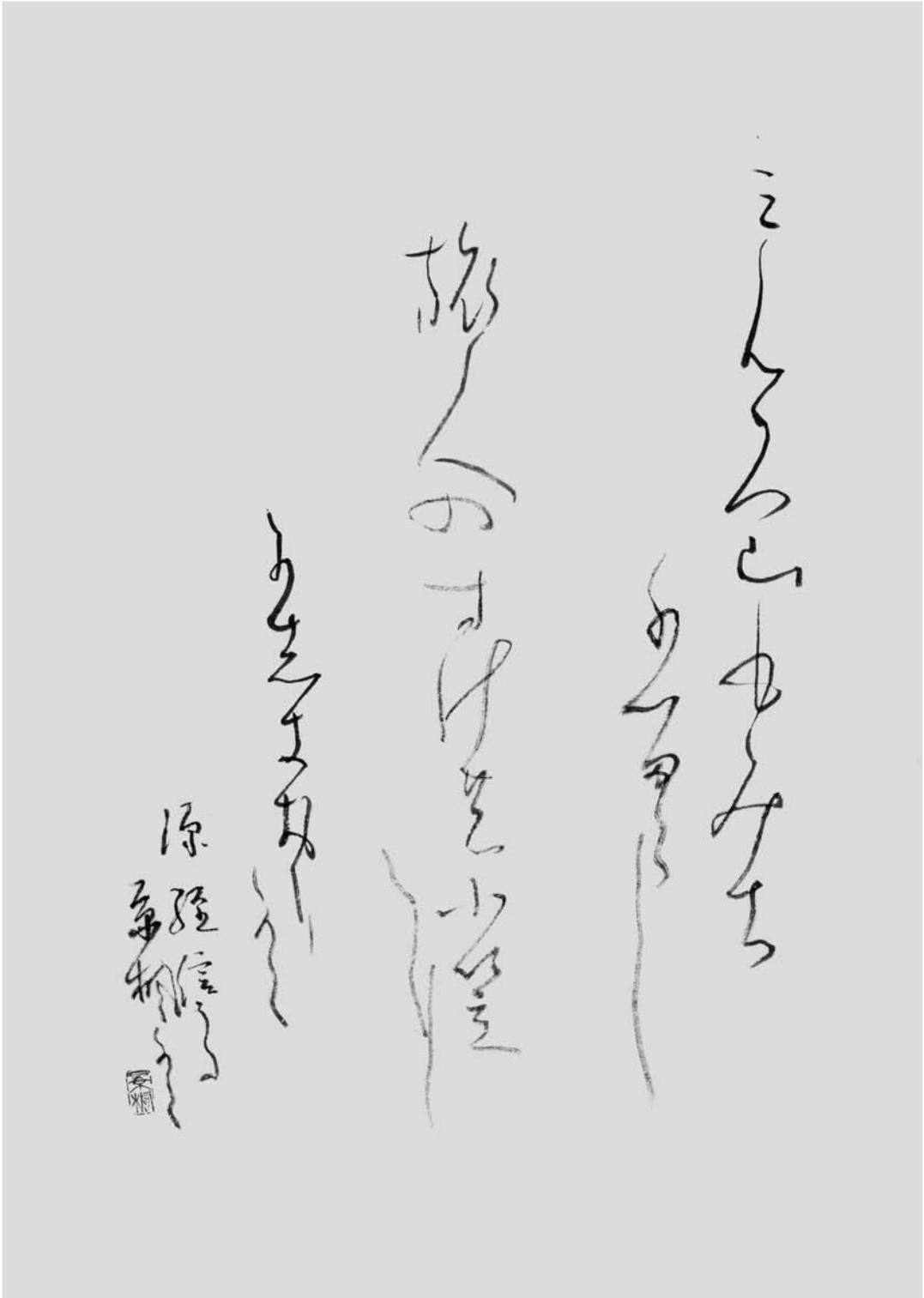
小学三年

の	幸
	福
	を
	よ
	ぶ
	四
	つ
	葉

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



岩本景楓先生書

みむろ山 三もみちちるらし 旅人の 寸すげの小笠おがきに 耳にしきおりかく 可久(源 経信)

三三室山には紅葉が散っているらしい。三室山を過ぎて来た旅人の菅笠に、紅葉が散って錦を織ってかけている。